

## 釜山国際観光展にブース出展しました

ソウル事務所

### 1. 釜山国際観光展の概要

2012年9月7日(金)から9月10日(月)まで、韓国釜山市のBEXCO(釜山展示・コンベンションセンター)において、「第15回釜山国際観光展(BITF2012)」が開催されました。この観光展には世界から37か国、234の企業や団体が出展し、430ものブースが会場を埋め尽くしました。期間中の一部は天候に恵まれなかったものの、会場には9万人を超える観客が押し寄せました。

今回のイベントには、日本からも21の団体や企業が参加し、それぞれが観光PRに努めました。クレアソウル事務所は初めてこの観光展にブースを出展し、日本の観光地の宣伝やイベントを行いました。



会場の BEXCO



賑わうクレアブース

### 2. 日本のどこに行ってみたい？

私たちクレアが行ったイベントの一つに観光アンケートがあります。これは壁に貼った大きな日本地図に、行ったことのあるところと行ってみたいところにそれぞれ小さなシールを貼ってもらうというものです。いわばお客さんの手によって観光地ドットマップが完成するのです。このアンケート、福岡や長崎に行ったことがあるという回答が多く目につきました。話を聞いてみると、船で九州に行ったことのある人、日帰りで九州に行ったことのある人など、釜山からは近く、気軽に行けることが人気の理由のようです。これに対して行ってみたいところでは北海道がトップでした。九州とは反対に釜山からは遠いのですが、広い大地と雪景色に憧れる人が多いようです。東京、大阪といった大都市も人気ですが、それぞれ特色のある地域に魅力を感じていることがうかがわれます。



子供たちはどこに行ってみたい？  
(ドットマップイベント)



多くのお客さんで賑わう自治体ブース

### 3. 韓国人旅行者が求めているもの

日程を通じて感じたのは、韓国のお客さんは「いくらで行けるのか」、「どんな楽しみ方があるのか」といった、より具体的な旅行情報を求めているということです。出展した日本の自治体や団体も、より実用的な情報を提供しようとする姿がうかがわれました。すでに韓国からの観光客が多く来ているというある自治体は、スマートフォンの無料アプリケーションを宣伝していました。観光地や宿泊施設といった情報だけではなく、トレッキングコースや交通情報も提供しています。これまでは団体客が多かったものの、最近個人客が増えつつあり、韓国語の観光情報を幅広く提供する必要があると感じたためだそうです。

また 10 回以上この観光展に出展しているという九州のある自治体職員は、韓国からのお客さんを宿泊に結びつけ、地元の温泉の需要増につなげたいと語りました。この他に広域的な交通ネットワークを示して県境をまたいだ売り込みを図る団体や、東京まで来ている観光客を引っ張ってくるべく努力している東京近郊の観光地など、皆さん置かれた状況は違えど韓国のお客さんに来てほしいという思いは一緒のようです。

### 4. 終わりに

韓国第二の都市である釜山市。日本とは歴史的に縁も深く、日本に対する関心も高いと感じました。距離的に近い九州が人気の観光地ですが、さまざまな自治体が日本からやってきてそれぞれの魅力を PR していました。

釜山国際観光展には多くの観客が押し寄せ、しかも日本に対する高い関心を持っています。情報発信の場として、今後とも注目していく必要があります。

最後になりましたが、今回のクリアブースの運営に際して、全国の自治体の皆さまから観光パンフレット、ポスター、配布用物品をお寄せいただきました。ご協力に感謝いたします。

(塚本所長補佐 秋田県派遣)